



Go West!

佐賀県立唐津西高等学校

学校だより NO.11 R4.09.15

【建学の精神】朝（あした）に希望 夕べに感謝

文責 学校長 下村 昌弘

E-Mail shimomura-masahiro@education.saga.jp

一冊の詩集がもたらすもの —ロシアのウクライナ侵攻に思う—

2・24 以来、ロシアがウクライナへ侵攻して半年という報道を何回か耳にした。戦争とは、かくも泥沼に陥りやすく狂気じみたものなのかと暗澹たる気持ちなる。

“狂気”といえ、大江健三郎の『われらの狂気を生き延びる道を教えよ』（1969年）のある一遍の中に次のような一文がある。

「様ざまな時代の様ざまな地方の戦争で、むごたらしくも^{たお}殲れた兵士の^{はいのう}背囊からしばしば詩集が発見されるという報告は何を意味しているだろうか。」



戦地で倒れた兵士のバックから一冊の詩集が見つかる。不謹慎な見解をお許しいただきたいが、切ないけれどなんて清浄なことかと思った。

詩には読み終えるということがない。詩は永遠に開かれた状態にある。何度読んでもいつ読んでも何かを語りかけてくれる。恐らく兵士たちは生死の境という過酷な状況に追い込まれようとも、そこでは魂の浄化をひたすら願っていたのではないか。

かたや、戦争に比べればずいぶん甘い話だが、私自身、高校時代、受験勉強に疲れた時に好きな詩人の詩集をめくり、また大学時代、部活の夏合宿へ向かうバックに詩集をしのばせ、心の平衡を保っていたことを思い出した。（どちらかという現実逃避か。）

夢が現実には打ち破られる秋。3年生は特に夏の勉強の成果がなかなか出ずに焦りや不安が芽生え始める時期かもしれない。しかしそれと戦うよりもそれをきちんと受け止めることのほうが人間として立派ならば、お互いそちらの修養をしようではないか。

その時に、座右におかれた一冊の詩集はきっとあなたを支えてくれるだろう。

ちなみに、オーストリアの哲学者ヴィトゲンシュタインは第一次大戦のさなか、重すぎる、厚すぎるある本を背囊に詰め戦地へ赴いたという。その本は『カラマーゾフの兄弟』。一説によると彼はこの小説を最低50回読んだとされる。レベルが違う。

“Go West!” —横断幕完成—

この言葉にかける私の思いは学校ホームページの「学校あいさつ」を参照してほしい。



この度、振興会（皆さんの保護者様）のご厚意により、西高応援横断幕を同窓会館前のフェンスに設置させていただいた。そこに校名とこの文字が入っている。

学校前の商業施設が解体され、眺望がよくなった。これを機に学校の存在を道行く方々に大いにアピールしたい。そして何より在校生の皆さんが登校時には「よし今日もがんばろう」と士気を

高め、帰りには「あー、今日も学校きつかったけど終わったなー」と振り返ってくれればと
思っている。

朝に希望、夕べに感謝。本校建学の精神である。

青の世界 今がその時 —文化祭成功裡に終わる—

9月2日(金)、今般の感染状況に鑑み、半日の開催とは
なったが3年ぶりとなった文化祭を単独開催した。3年生
の皆さんには初めてのイベント。高校時代の思い出づくりに
間に合ってよかったと胸をなでおろしているところだ。

文化部のパフォーマンスや各クラスの催しものはよく
意匠が凝らされていて、今どきの高校生らしさが出ていてたいしたものだと感心した。

それから、文化祭に関して感激したことが2つ。一つは、ある生徒たちから「クラスの出
し物をもっと工夫したい」「自分たちのクラスに努力賞がほしい」といった言葉が聞けたこと
だ。来年への意欲を感じ、たくましいなと思った。

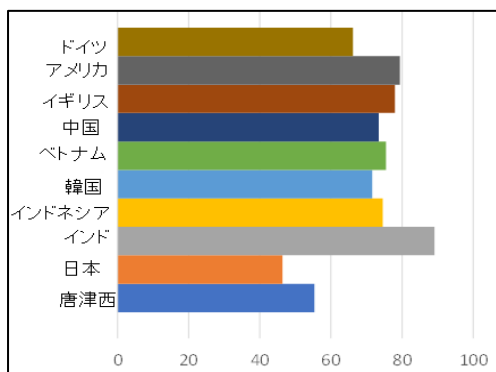
もう一つは3年生から「開催していただきありがとうございました」と感謝の言葉を受け
たこと。もちろん、私の力で開催できたのではなく、生徒一人一人の思いと先生方のサポ
ートが開催へと漕ぎつけた大きな要因だ。しかし、こうした感謝の気持ちを奇をてらわずに語
ってくれるところに西高スピリットを感じた次第。明日に希望、夕べに感謝。いい学校だな。

最後になりましたが、保護者の皆様は無事開催できたことをご報告するとともに、あらた
めて御礼申し上げます。感謝。



これからは“探究”がおいしい！

1 学期末、皆さんにアンケートをお願いした中に「自分には解決したい社会や地域の課題
がある」という質問があった。その結果が左のグラフ。



これはもともと20歳を対象として世界的に調査され
ている「青年意識調査」だ。したがってこの結果を一概
に比較することはできないが、他国に比べるとまだまだ
だが、日本の平均と比べると本校の値は上回っているこ
とが分かる。

これは皆さんが教科の授業や総合的な探究の時間、あ
るいはボランティア活動などをとおして地域社会への問
題意識を醸成してきたからだと思う。

特に今後、総合的な探究の時間を学びの中核に据えて、各教科でも探究的な学びを積み重
ねながら、気づき、考え、行動する力をつける必要がある。

「探究」とは、正解のある課題をこなすだけ
でなく、自ら課題を設定し、協働的に最適解、
納得解を創造する営みだ。2学期はこのことを
意識しながら勉強してほしい。

【9月後半の主な行事】

- 9月17日(土) チャレンジセミナー
- 18日(日) 看護模試
- 22日(木) 45分授業
- 29日(木) 2年保護者会・1年文理説明会
- 30日(金) 英語検定